

# 岩手教区報

第388号  
 立教188年4月1日  
 天理教岩手教務支庁  
 盛岡市馬場町3-40  
 TEL 019-622-7962  
 FAX 019-623-9597



## 一手一つに仕上げの年を

岩手教区長 鈴木真彦

教祖140年祭

この度の大船渡山林火災で被害に遭われました方々に、心よりお見舞い申し上げますと共に、一日も早く心安らぐ生活に戻れますよう祈念いたします。

この山林火災に対して、教区として本部に連絡した上で、災害対策委員会を立ち上げました。そして災害隊を中心として岩手教区で何かできることはないかと模索している中、愛与布教所の渡部所長を通して、大船渡市社会福祉協議会より支援物資仕分け作業の依頼がありました。一日2、3人の割り当てですが、団体として要請があるのは、私たち「天理教」だけではありません。それだけ認知度が高く、信頼されていると受け止めていいと思います。これは、道の先輩方がこれまで積み上げてきた実績に対する、大いなる評価とあっていいでしょう。なお、物資仕分け作業は、3月5日より14日までつとめさせていただき、その後も要請に応じての作業に当たっています。

さて、さる3月26日に真柱様より教区長の辞令を頂戴し、引き続き三年間勤めさせていただくこととなりました。本部の思いに添って、岩手教区管内の教友が心一つに、勇んだ教区活動をつとめて参りたいと存じます。

真柱様は、昨年12月の月次祭祭典後、会議所において、年祭までの1年余りを布教の家に例えられ、1年の間に起承転結があることを思えば、1年というのは色々なことが出来る、来年も年祭の動きが盛り上がるような心がけていただきたい、とお話し下さいました。私たちはこのお言葉にしっかりと心を合わせて、お応えさせていただかねばならないと思います。

年祭活動3年目の年に、おちばがえりの推進が提唱されており、当教区の取り組みとして5月24日から27日の日程で「岩手教区おちばがえり」団参を実施します。2年ぶりの教区団参となりますので、大勢の教友と共に勇躍おちばへ帰り集い、親神様、教祖にお喜びいただきたいと思っております。

今年、教祖百四十年祭活動仕上げの年であり、岩手教区と致しましても、管内の教友と一手一つに年祭活動を勇んで邁進させていただきたいと存じます。

大船渡山林火災後の支援の実動につきましましては、被災された方々に親身に寄り添い、一日も早く心落ち着く生活に戻れるよう、精一杯つとめたいと思っております。何卒、皆様方の変わらぬお力添えをよろしくお願い申し上げます。



### 「いんねんと量子もつれ」

2022年のノーベル物理学賞は「量子もつれ」の研究に対して授与されました。もつれというと、すぐに思い浮かぶのは「痴情のもつれ」や「もつれた関係」など。あまり良いイメージはありません。量子の世界のもつれとはどのようなことなのでしょう？ それは、極微の世界で相互作用をしていた二つの光や粒子が別々の方向に飛び去ってしまう場合、この二つがお互いに離れた後で片方の状態を測定するともう一方の状態が判るといふ話です。

私はこの量子もつれは天理教の教えである「いんねん」に近い概念であり、いんねんを理解する手掛かりになると考えています。天理教では、親子や夫婦や友人など、私たちの周りの形成される関係は、前生からの深いいんねんで結ばれて

いる自らを映す鏡であり、過去から現在を経て未来への礎となるものであると教えられています。

おふでさきに、

せんしよのいんねんよせてしうごふするこれハまつだいかとをさまる

(一七四)

量子もつれを一組のご夫婦チナミさんとエニシさんの話に例えて説明したいと思えます。ある日、二人は「今日の昼食はラーメンにしよう」と言っていて、それぞれの仕事に出かけました。ところが、エニシさんはお昼にラーメンではなくソバを食べたそうです。自宅に帰って昼食の話をしたところ、チナミさんのお昼もラーメンではなくソバだったそうです。また、ある日、チナミさんはお昼にカレーライスを食べました。そして家に帰ったら、エニシさんは夕食にカレーライスを用意していました。このような不思議に遭遇すると、「テレパシーが働いた」とか「私たちが気が合うね」と言えます。極微の世界では、偶然では説明できない頻度でこのようなことが起きているのです。

量子もつれは、離れた後で通信しあうこととお互いの情報を共有するのではなく、モノとモノの間の強い関係(相関とも言いまます)によって引き起こされる現象です。その原理は量子テレポーテーション

#### 岩手教区おちばがえり

期間 5月24日～27日(3泊4日)  
 団費 39000円(家族割あり)  
 宿泊 第38母屋  
 人員 70人  
 ※詳細は募集チラシをご覧ください。

#### 行事予定 【4月分】

- 1日 主事会(11時)
- ” 役員会議(13時)
- 12日 青年会例会(19時)
- ” 学生担当委員会例会 (20時)
- 26日 女子青年例会(10時)
- 29日 全教一斉ひのきしんデー
- 30日 婦人会例会(10時)

### 立教188年「全教一斉ひのきしんデー」 ～成人の旬 一手二つにひのきしん～

教祖140年祭に向かう年祭活動の3年目に、全国各地でより多くのようぼく・信者が寄り集い、ひのきしんに真実の汗を流して、ご存命の教祖にお喜びいただきましょう。

#### 会場一覧

##### 【九戸支部】

4月29日 8時半	洋野町立中野中学校
” 9時	川尻海岸
” 9時半	洋野町立大野小学校

##### 【二戸支部】

4月29日 6時	浄法寺診療所
” 9時	田代平道路
” 9時	北福岡分教会
” 11時	金田一分教会付近

##### 【盛岡支部】

4月27日 10時半	田山分教会云前農道
4月29日 9時	沼宮内分教会
” 9時半	盛岡城跡公園
5月3日 10時	岩盛分教会

5月4日 6時半	盛岡市大通り周辺
” 9時半	岩手教務支庁
5月16日 9時半	もりおかこども病院
5月18日 9時	老人ホームあんずの里

##### 【三陸支部】

4月29日 9時半	国立公園浄土ヶ浜
” 9時半	釜石市八雲公園
” 9時半	山田町荒神海水浴場

##### 【花巻支部】

4月29日 7時	城山公園
” 9時	花巻小学校
” 9時半	北上市第1分団第1部
5月31日 8時	遠野市鍋倉公園
” 10時	城山公園

##### 【奥州支部】

4月29日 8時半	国保金ヶ崎診療所
” 8時半	JR陸中折居駅
” 10時	江刺総合 コミュニティセンター

##### 【県南支部】

4月29日 10時	愛与布教所周辺
” 10時	吉野森公園
” 10時	陸前高田大野海岸 桜保育園
” 10時	特老ホームひなた苑



### 献血推進委員会

#### 「献血推進研修会」報告



3月1日10時より教務支庁を会場に「献血推進研修会」が開催され、19人が受講した。

講師に岩手県赤十字血液センター事業副部長西海枝武志氏を迎え、献血や血液について、歴史的背景や目的などわかりやすく説明して頂いた。その後参加者から素朴な質問や様々な意見が出された。

近年、献血は医療機関からの要望で400ml献血を基本としている。これが若年層の献血者減少の一つの要因になっている。若年層はもとより、家族、近所など自分たちのまわりに声がけをする重要性を改めて感じた。

8月31日には、教務支庁において「献血ひのきしん」を実施します。多くの方々のご協力をお願いいたします。



### 災 救 隊

#### 大船渡山林火災における

#### 対応について(第1報)



2月26日午後1時頃、大船渡市赤崎町合足地区で発生した大規模山林火災は、焼失面積約2900畝、建物被害210棟、1896世帯4596人を対象に避難指示が発令されるなど、平成以降国内最大の林野火災となった。

当教区の対応として、火災発生翌日の27日、表統領室から被害状況の確認の指示があり、鈴木眞彦教区長が全支部長に各支部の被害状況の把握を指揮(建物被害無し、若干名の避難者あり)。同日、教区主事が現地を視察。翌28日、災害対策教区委員会が開かれ、今後の対応が協議された。

3月1日、災救隊千葉道雄隊長と高橋

邦之副隊長が岩手県社会福祉協議会を訪問し、出動の意思を伝えた。3日には、大船渡社会福祉協議会から渡部敏次愛与布教所長に物資仕分けの作業依頼があり、直ちにその話が教区に届けられ、災救隊の出動(各日2又は3人)が決定となった。翌4日、千葉隊長、高橋副隊長が大船渡社協に出向き、活動の詳細が話し合われた。

今回の出動は3月5日から14日の日程(10日間)で、災救隊員、支部有志など延べ23人が実動した。主な作業場所は、大船渡社協ボランティアセンター、大船渡市民体育館、三陸公民館、猪川小学校、大船渡小学校、他。作業内容は、物資の仕分け、運搬、配布、避難所物品の運搬などであった。

なお、参加者名は次の通り。

- 5日 千葉道雄、高橋邦之
- 6日 藤田勇夫、高橋邦和
- 7日 千葉道雄、吉田眞一、高橋邦之
- 8日 堀口教之、相澤元
- 9日 羽澤徹、権谷福朗、村松義朗
- 10日 桐山太司、桐山奈緒子
- 11日 関田元之理、藤田勇夫
- 12日 権谷正一、権谷あけみ
- 13日 千葉道雄、吉田眞一
- 14日 工藤裕樹、田嶋正彦、佐々木良治

※第2報は次号に掲載予定。



### 青年会

#### 「3・11ひのきしんデー」報告



教区青年会は、去る3月9日(日)、三陸支部の大槌町吉里吉里海岸海水浴場に於いて、「青年会ひのきしんデー」あの日を忘れない」を実施し、会員ら7人が参加した。

親神様、教祖、祖霊様を遥拝後、10時から砂浜のゴミを拾い開始し11時に終了した。その後町内の飲食店にて昼食を取り、解散となった。

また、同日9時から15時にかけて、大船渡市民体育館において、大船渡山林火災の支援物資仕分け作業に会員3人が参加した。今後は、大船渡山林火災の被災地域も含め、より一層心を寄せていきたいと思う。

